



2016年6月29日
株式会社かんぽ生命保険
世界銀行

世界銀行の本邦市場初となる国内外貨建て 「グリーンボンド」への投資

株式会社かんぽ生命保険（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 石井雅実、以下「かんぽ生命」）は、このたび、世界銀行（国際復興開発銀行：IBRD）が本邦市場において初めて発行するグリーンボンド（国内外貨建て（ショーゲン債）・私募形式、1億米ドル）へ投資しました。

今回の投資は、かんぽ生命にとって初めての本格的なグリーンボンド（国内外貨建て・私募形式）への投資となります。世界銀行においても、グリーンボンドにおける国内債発行は本邦資本市場初の試みとなります。

世界銀行は、本邦市場において、30年以上前に初めてショーゲン債を発行した発行体でこのショーゲン債も米国ドル建てで発行されており、本邦投資家のために様々な通貨建ての世界債を発行し為替分散投資の機会を提供するという現在の起債方針の草分けとなりました。また、世界銀行は1971年におけるサムライ債、1987年における大名債発行といった新型債券を発行しており、日本の資本市場の発展にも寄与しております。

かんぽ生命は、「いつでもそばにいる。どこにいても支える。すべての人生を、守り続けたい。」という経営理念のもと、「健康促進、環境保護、地域と社会の発展に積極的に貢献します。」を経営方針の一つとして、環境保護を社会的責任と捉えて取り組んでいます。資産運用においても、この経営方針のもと、ESG（Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス））に関する取組の第一歩として、投資を実施いたしました。

かんぽ生命は、今後もグリーンボンドなどへの投資を通じて社会的責任を果たすとともに、適切なリスク管理のもとで、運用資産の多様化を進めることにより、収益性の向上を目指してまいります。


世界銀行グリーンボンドは、地球温暖化問題に苦しむ開発途上国を支援すべく、様々な温暖化対策プロジェクトへの資金の貸出を支えています。特定の用途に利用する目的で資金調達をすることがグリーンボンドと通常の債券との相違点となっています。つまり、グリーンボンド発行で得た資金がどのような環境効果を意図するプロジェクトに利用されるかが、投資家にとって重要な検討材料になります。世界銀行は、2008年に初のグリーンボンドを発行して以来、これまでに総額90億米ドル相当のグリーンボンドを120銘柄、18通貨で発行しています。

以上

■世界銀行のグリーンボンドが支えるプロジェクトの事例

グリーンボンドを通じて調達された資金が支えるプロジェクトの事例をご紹介します（個々のプロジェクトと今回の世銀債の資金は直結しておりませんので、投資家が個々のプロジェクトのリスクを負うことはありません。一方、本世銀債の償還前までに個々のプロジェクトへの新たな資金貸出実行を保証するものではありません。）。

○インド 第四次電力供給システム改善プロジェクト

プロジェクト概要	
目的 インドの送電設備を強化し、温暖化ガスの排出量を削減	
期待される成果 <ul style="list-style-type: none"> 68,000 ギガワットの電力の地域間での優遇 526-933 メガワットの送電損失の低減 107,000 サーキット・キロメートルの送電網の拡充 	
世界銀行貸出額：4 億米ドル	
©Curt Carnemark/World Bank	


インドでは電力供給システムが脆弱なため潜在的な成長力が抑制されており、電力が供給されていない居住地区も数多く存在します。世界銀行のプロジェクトにより、送電設備を刷新することで送電ロスを削減し、環境への負荷を軽減することができました。具体的には水力発電の余剰電力を電力が不足する地域に融通することで石炭発電所の乱立を回避することができました。

○インドネシア 水資源と灌漑管理プロジェクト

プロジェクト概要	
目的 政府による水資源と灌漑の管理能力向上	
期待される成果 <ul style="list-style-type: none"> 耐久性と効率性の高い灌漑施設からの水による作物生産量の増加 12の河川流域の50万世帯の農家の作物生産量増加 	
世界銀行貸出額：1 億 5,000 万米ドル	
©Curt Carnemark/World Bank	

インドネシアでは大半の農作物は灌漑地域で栽培されているため、水資源と灌漑の効率的な管理は、インドネシアの水と食糧確保において非常に重要です。このプロジェクトは、政府による水資源と灌漑の管理能力の向上により、農家の作物生産量の増加が期待されています。

○モロッコ ごみ処理開発政策融資プログラム

プロジェクト概要	
<p>目的 政府の廃棄物処理セクターの管理体制の強化</p>	
<p>期待される成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11 の地方自治体における廃棄物管理プログラム実施などの制度改革 ● 衛生埋立処分場で処分される廃棄物の割合の増加（10%から 30%）と 21 か所のゴミ捨て場の閉鎖又は改善 ● 年間 73 万 5,000 トンの Co2 排出量の削減 	
<p>世界銀行貸出額:1 億 3,270 万米ドル</p>	

©Curt Carnemark/World Bank

モロッコ政府によるごみ処理セクターの明確な組織化及び政策策定や規制化、運営体制における重複やギャップを解消し、規制や制度を見直して、ごみ処理セクター改革を支援するものです。また、ごみ処理プログラムに対する財政や環境、社会の持続性向上を目指します。

<世界銀行について>

世界銀行（国際復興開発銀行、通称 IBRD : International Bank for Reconstruction and Development）は 1944 年に設立が合意された国際開発金融機関で、現在 189 の加盟国が出資し運営しています。加盟国の公平で持続可能な経済成長を目指し、地域及び世界規模の経済や環境問題に効果的に対処していくために、世界銀行は中所得国に対し貸出・保証、リスク管理サービスに加え、開発に関わる様々な分野の専門的な分析・助言サービスを提供しています。世界銀行の目標は、世界の極度の貧困を終結し、すべての人々が共に豊かに暮らせるよう繁栄を共有させることです。世界銀行は貸出資金を調達するために、60 年以上にわたり、国際資本市場で債券（世銀債）を発行しています。

世界銀行は、1971 年に初めてサムライ債（円建て外債）を発行して以来、日本の投資家の多様なニーズに対応するため、国内外貨建て債・大名債・グローバル円債・グリーンボンドといった新型債券を開発し、途上国向け融資資金を日本の投資家から調達しつつ、日本の資本市場の発展にも寄与しております。

以上